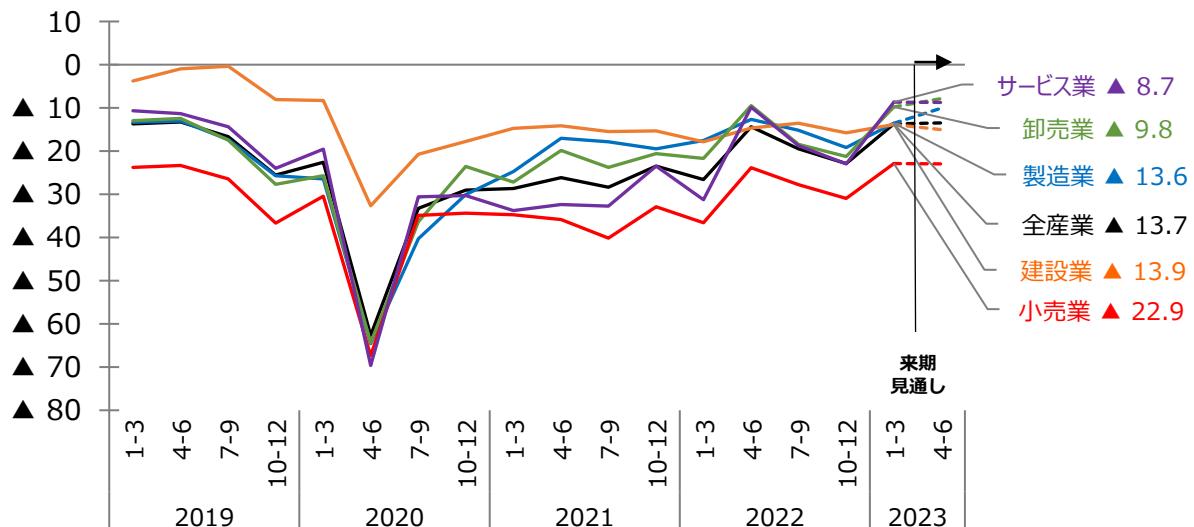


# 第171回中小企業景況調査（2023年1-3月期）のポイント

## 1. 中小企業の業況判断DIは、3期ぶりに上昇

全産業の「業況判断DI(前期比季節調整値)」は▲13.7で3期ぶりに上昇し、前期(2022年10-12月期)の9.2ポイント増、2023年4-6月期の見通しは0.2ポイント増。産業別では、サービス業は前期比14.3ポイント増、卸売業は11.5ポイント増、小売業は8.1ポイント増、製造業は5.6ポイント増、建設業は1.9ポイント増とすべての産業で上昇した。

業況判断DI (前期比季節調整値)



※前期(2022年10-12月期)と比べて「好転」「不変」「悪化」で回答。

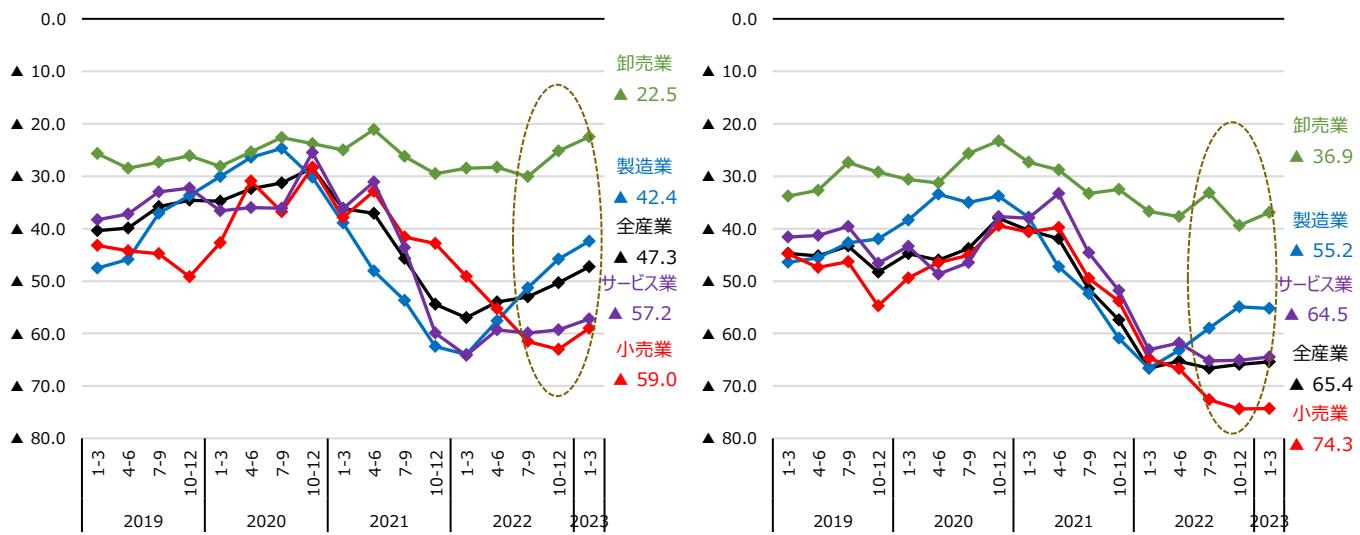
## 2. 小規模企業の売上単価・客単価は横ばい基調

「売上単価・客単価DI」と「原材料・商品仕入単価DI」の差から原材料等の上昇に対する売上単価への価格転嫁動向をみると、中規模企業が上昇基調であるのに対して小規模企業は横ばい基調かつ水準も低く、特に小売業での価格転嫁が進んでいないと考えられる。

【「売上単価・客単価DI」-「原材料・商品仕入単価DI」】

【中規模】

【小規模】



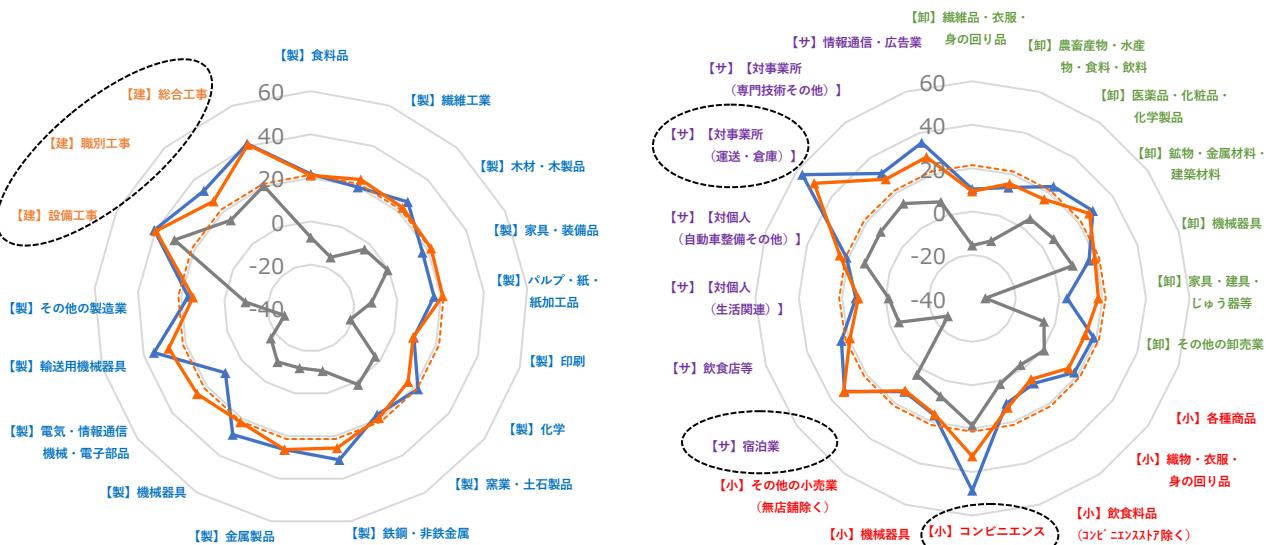
※前年同期(2022年1-3月期)と比べて「上昇」「不変」「低下」で回答。 ※建設業は、「売上単価・客単価」が調査対象外のため該当データ無し。

## 3. 従業員の不足感が強まり、概ねコロナ前と同水準に

従業員数過不足DIは、全ての産業及び業種で「不足」の回答が「過剰」の回答を上回り、概ねコロナ前(2019年1-3月期)と同水準まで不足感が強まっている。特に、建設業全般や小売業のコンビニエンスストア、サービス業の宿泊業、対事業所サービス業(運送・倉庫)等で不足感が強く表れている。

従業員数過不足DI (今期の水準)

2019年1-3月 2020年4-6月 2023年1-3月 全産業平均値(2023年1-3月)



※今期の従業員について「過剰」「適正」「不足」で回答。 ※従業員数過不足DIの符号を反転(DI値×-1)させて表示。

## 4. 中小企業のコメント

**【卸売業】** ◆経費が増大しているものの、販売単価の上昇に消費が追いついていない。採算が悪化する中、賃上げが求められる。企業の廃業・倒産が増加しているように感じる。[靴・履物卸売業]

**【小売業】** ◆仕入単価の上昇が止まらないことに加え、人件費も上げないと人材不足になるため、販売価格を上げないといけないが、客数減少が怖いので、十分な値上げができない。利益が少なくなってしまう。[菓子小売業(製造小売)]

**【製造業】** ◆原材料価格は落ちついてきたが、電力料金労務費のアップの為に価格交渉が厳しい。人手不足は慢性的になっており、頭数は揃えても経験不足から、生産性が落ちていく。相当なペースアップをしなければ人は来ない。[銅・同合金鋳物製造業(ダイカストを除く)]

◆引き合いは多く、受注に関しては問題ないものの、人材確保難と原材料仕入れ価格の上昇により、人件費上昇、利益率の低下が否めない。[その他の産業用電気機械器具製造業(車両用、船舶用を含む)]

**【建設業】** ◆契約前の相談が多いが資材の高騰、労働者の確保が難しく安易に受注できない。外注に頼りたいが取引先も高齢化や人材確保に苦労しているらしく頼れない。仕事があっても受注できない事に苦慮している。[木造建築工事業]

◆管材・器具等の値上がりが続いているし、納期もかかっている。従業員の確保も難しい現状である。[給排水・衛生設備工事業]

**【サービス業】** ◆全国旅行支援及びインバウンド増加により、宿泊人数及び宿泊単価が好転。但し、仕入単価、水道光熱費上昇により利益減少が続く。[旅館、ホテル]

◆新型コロナウイルスの感染状況が落ち着き、社会活動が再開されつつある。客数はコロナ前の水準に戻りつつあるが、光熱費の高騰が経営を圧迫している。ようやく客足が戻りつつある中で料金転嫁・値上げには踏み切れない状況。[理容業]

【調査要領】  
 1.調査時点 2023年3月1日時点  
 2.調査対象 中小企業基本法に定義する全国の中小企業(調査対象企業数18,840、有効回答企業数17,980、有効回答率95.4%)  
 3.自由回答数 3,986件(上記の他、「中小企業景況調査報告書」p.11、「中小企業景況調査資料編」pp.79-80に掲載)  
 ※中小企業景況調査の自由回答(フリーコメント)  
 項目を選択する方式ではなく、業況判断の背景についての感想や意見を自由に記入する方式であることから、各企業が抱える課題が表れている。